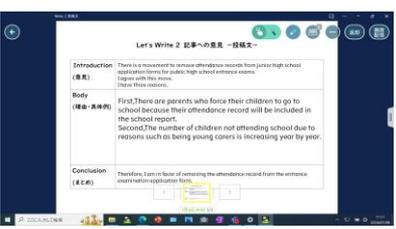


リーディングDXスクール事業【実践事例】

※京都市立八条中学校（京都府）

【取組内容】 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用①」

- クラウドを活用した一人一人の子どもが意見を出しやすい授業実践にチャレンジ、成果のあった取組と今後の課題について教職員間で共有する際、クラウドを最大限活用した。昨年度の取組も閲覧することができるので、新着任した教職員もクラウドを通してアイデアを得ることができる。
- 1学期は「共有」、2学期は「個別最適化」、3学期は「個別最適化」と「共有」をキーワードにした授業を実践し、教科を超えて交流することで、全教職員の授業力の向上を図った。 **（教職員間で共有した取組実践）** ※一部抜粋

共有	個別最適な学び	教科・学年	取組の様子	取組の内容 (どのような場面でICTを活用し成果があったか)	課題
○	○	国語 1年		<p>【取組】 毎単元で、学習のまとめを学習支援ソフトで自分の考えを整理し、今後の学習や生活にどのように生かしていきたいのかを考えさせて積み上げることができた。</p> <p>【成果】 授業内の交流学习で他の生徒からもらったアドバイスシートや、自分が他の人に送ったアドバイスシートも同じテキストにまとめることで、交流の中での学びを評価することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交流時にタブレット端末を見て話したり、聞いたりする場面が多く、相手を意識しない場面が多く見られた。交流方法に「相手意識を持つ」という工夫が必要であると考える。
○	○	数学 1年		<p>【取組】 自分の考えを学習支援ソフトの提出箱を用いて提出し、学習支援ソフトにある「選択・比較」機能を用いて、それぞれの生徒の答えや考え方を画面に映すことで、全体で共有し、再度個人で考える時間を設けた。</p> <p>【成果】 他者の考えを受けて自分の考えの変容を感じたり、改めて自分の考えが良いと思いながらも、一つの手段として他者の意見も取り入れようとしていた姿が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一度に多くの意見を比較しようとすると、一つ一つの画面の大きさが小さくなってしまいうので、こちらでいくつかに分類してから示す必要があった。
	○	英語 3年		<p>【取組】 自分の興味がある記事について、投稿文を作成。インターネットでニュースを調べ、興味を持った記事をパラグラフライティングの形式に則って学習支援ソフトに英作文し、提出する。</p> <p>【成果】 ネット環境で多くの情報があり、選択肢が多いので、自分の興味がある記事を選びやすい。そのため、生徒のモチベーションが上がり、熱心に取り組むことができる。Google翻訳を使用することで、英作文へのハードルは下がっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Google翻訳を使うと作文のハードルは下がるが、一から英作文する力はつかない。そのため、英作文の後は暗記して表現を学んだり、タブレットを使わずに辞書のみで英作文をするなど、バランスも必要。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

※京都市立八条中学校（京都府）

【取組内容】 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用①」

（教職員間で共有した取組実践） ※一部抜粋

共有	個別最適な学び	教科・学年	取組の様子	取組の内容 (どのような場面でICTを活用し成果があったか)	課題
○		理科 1年		<p>【取組】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①頭骨標本を数種類ずつ配置。 ②生徒たちは5分ずつ、ローテーションで班ごとに机を移動し、それぞれのテーブルのミッション（門歯、犬歯、臼歯の見分けや頭骨の特徴調べ）に取り組む。（学習支援ソフトを利用） ③歯の様子を観察する課題では生徒自らが頭骨を撮影して、その画像に気づきを記入していく。 <p>【成果】</p> <p>グループでお互いに協力しながら課題に取り組ませることで、理解に時間がかかる生徒も他のメンバーの様子をみながら取り組むことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 時間内に取り組むべき課題が多く、課題を精選する必要があった。
	○	保健 体育科 1・3年		<p>【取組】</p> <p>バレーボールの直上パスの技能習得に向け、動画を撮影し、自分で確認した。また、グループでアドバイスを出し合った。客観的に自分の動きを見ることができた。自分で考える改善点とアドバイスを受け入れることができていた。</p> <p>【成果】</p> <p>アドバイスを受け、実践することで、協働的な学びを実現させるだけでなく、技能習得までにかかる時間も短縮することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 十分な実践練習をする活動時間の確保が困難である。動画撮影を見る時間、実践練習の時間などを授業の1時間に収めようとすると実践活動時間が短縮される。
○	○	総合的な学習の時間 2年		<p>【取組】</p> <p>職業調べなど、インターネットを活用し、必要な情報を得る。収集した情報をパワーポイントを共同編集し、「チャレンジ体験」のプレゼンテーションを作成した。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 欠席生徒も、自宅で共同編集できるので、とても便利であった。 • インターネットを活用することで、多様な視点で情報が得られ、調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学年全員でファイルを共有するので、誤作動で消えたり、移動したりすることがあり、生徒がなれるまでに時間がかかった

リーディングDXスクール事業【実践事例】

※京都市立八条中学校（京都府）

【取組内容】「情報活用能力の育成②」

- 総合学習にて、上級学校（高等学校）や観光地についてインターネットを活用することにより、多様な視点の情報を得ることができ、その情報を仮説として、実際にその現場を経験し、場所と人に触れ、仮説と経験を比較することで、情報と実際の差など、新しい発見と学びにつなげることができた。また当日は、タブレットを持参し、リアルタイムで得た情報にTeamsに投稿することで整理・分析につなげることができた。
- 総合学習にて、インターネットを活用し、行き方や所要時間、値段なども調べ、計画を立て、その計画を実行することができた。
- 総合的な学習で、実際に生徒たちが、上級学校と観光地を訪問し、その情報（営業時間、拝観時間、入場料、所在地、行き方など）を生かすことで、情報活用能力の育成を図った。



校外学習

7班



大谷高校でしたこと

高校のパンフレットを見ながら、質問を担当の先生に聞いた。
校舎の中を回って、中学生の授業と高校生の授業を見学した。
中学生の授業は理科の実験をみた。
高校生の授業は国語の授業と体育の授業をみた。
国語の授業は教室の雰囲気が良くて、生徒と先生が笑顔だった。
体育の授業は男女別でやっていた。先生と生徒のきりが近くて、楽しそうだった。
女子→平均台 男子→ハードル走



開建のすごかったポイント

- 学校の生徒みんなが楽しい学校生活を送れるように考えられた
- 球技大会を生徒内で競技を決めたり、1年の研修旅行は行き先を決めたり、定期的に行事を行ったりして勉強をしながら楽しむ工夫がされてすごかった。
- 行事だけでなく学習面でもいろいろな工夫がされた
- 教室「L-pod」があり普通の教室の四倍で、ホワイトボードで区切ることができます。
- 担任の先生が三人いて講義や授業内容が決まります



リーディングDXスクール事業【実践事例】

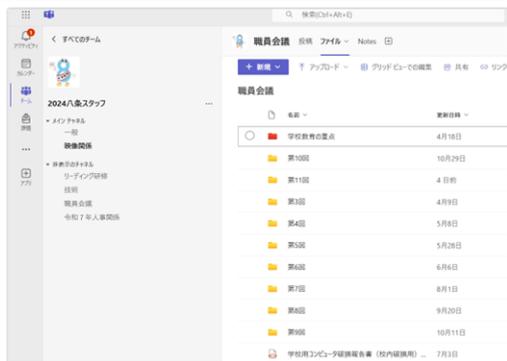
※京都市立八条中学校（京都府）

【取組内容】「校務DX（標準仕様とクラウドを活用し教員の働き方改革につなげる取組）④」

「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・職員研修」

職員会議のペーパーレス化、簡略化における時間短縮やクラウド上でのデータ移行において、働き方改革へつながる時間捻出・調整の工夫。

職員会議資料



職員会議資料をTeamsに提出することとし、教職員全体で共有した。また、クラウド上で共有した資料は共同で追加や編集を行った。

【成果】

- 資料のペーパーレス化により印刷や配布にかかる時間を削減でき、働き方改革につながった。
- 職員会議に出席できなかった教職員も最新情報をいつでも確認できるようになった。

保護者連絡ツール



職員室内に大型モニターを設置し、保護者連絡ツールに届いた欠席・遅刻連絡を映し出すことで、担任を含め教職員が一目で把握しやすくなった。

欠席・遅刻生徒への保護者連絡や配布プリント等も保護者連絡ツールで行っている。

【成果】

- 教職員全体の連絡漏れが大幅に減り、情報共有がスムーズになった。
- 保護者への連絡やプリント配布が簡単に行えるので、担任業の軽減につながる。
- 既読機能もあるので、既読がついていない保護者への対応もできる。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

※京都市立八条中学校（京都府）

【取組内容】「校務DX（標準仕様とクラウドを活用し教員の働き方改革につなげる取組）④」

「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・職員研修」

職員会議のペーパーレス化、簡略化における時間短縮やクラウド上でのデータ移行において、働き方改革へつながる時間捻出・調整の工夫。

職員専用SharePoint



その他

- ① 研究報告会の申込やアンケートの収集
- ② 研究授業の様子を配信
- ③ 管外視察先からのライブ配信

職員専用SharePointを作成し、職朝連絡の簡略化と旅費、特殊勤務手当などクラウド上で、一括して事務作業を行える工夫を行った。教職員が直接、ファイルに入力することで「書類作成（教職員）→ファイル入力（事務職員）」の作業を省く。

【成果】

- 資料のペーパーレス化により印刷や配布にかかる時間を削減でき、働き方改革につながった。
- クラウド上で作成編集できるので、書類作成が簡略化、効率化できる。

【成果】

- ① 研究報告会の申込をFormsで受け付けることで、参加者の集約が簡略化できた。
- ② YouTubeで研究授業を配信することで、対面で参加することができない教職員や保護者も参加することができた。
- ③ 出張者がカメラを持参し視察の様子をオンライン配信することで、参加できなかった教職員も先進校の取組紹介等を直接聞くことができた。